

◇質疑応答（概要）

記者：タウンミーティングの実施は、東海第二発電所の再稼働賛否に関する住民の意向把握とどのように関わってくるのか。また、今年度を実施した感想を伺いたい。

村長：テーマを「まちづくりと原子力」とし、原子力に関する情報提供も行った。再稼働に対する慎重な意見や、広域避難計画に関する意見が出るなど、一定の手応えを感じているが、再稼働の賛否に関わる話には至っていない。「まちづくり」と「原子力」は切り離せない部分があり、今後もまちづくりについて話し合っていく中で、「原子力」についても触れていきたいと考えている。

記者：ウォークアブルなまちづくりの推進事業はフレイル予防が目的か。事業のターゲット層はどこか。

村長：フレイル予防の側面もあるが、普段「歩く」ことができていない方に、歩く楽しみや、歩くことによる気づきを持ってもらうための環境づくりが目的である。将来的にフレイル予防や健康づくりなど、政策的なことにつなげたい。

記者：出産・子育て応援パッケージ事業の「ギフト券」と「こども商品券」は同じものか。

村長：お見込みのとおり。すべて「こども商品券」として総額15万円を支給する予定である。

記者：宇宙線ミュオンによる古墳探求プロジェクト推進事業について、自治体がミュオンを教育活動と絡めて実施するのは初めてか。

村長：教育活動に活用するのは初めてだと思うが、担当課に確認して欲しい。

記者：令和5年度の新規事業で県内初の試みのものはあるか

村長：県内初のものかどうかは把握していないが、出産・子育て交付金を「ギフト券」で支給するのは東海村だけだと思う。他市町村は現金支給である。ギフト券支給は現金支給と比べて、手続きが発生する手間があるが、村内事業主に還元するためギフト券とした。また、他市町村は10万円のところ村では15万円の支給としている。

記者：原子力発電所の運転期間について、原子力規制委員会でも全会一致でなく、稼働60年を過ぎたものの審査をどうするのかあいまいな部分があるとの意見が出ていた。この議論について、東海第二発電所についても停止期間は運転期間から差引かれることになるが、村長の考えを伺いたい。

村長：専門家の中でも安全性について意見が分かれているところもあるが、原子力規制委員会を含めて、国から国民に理解される説明が必要であり、注視していきたい。

記者：原子力規制委員会では安全性について反対された方もいたが。

村長：専門家の中にそのような考えの方がいるならば、そういった側面もあるのだろう。そのような意見も含め、国に説明責任を果たしてもらいたい。

記者：東海第二発電所内で火災の報道が数件あったが、どのように受け止めているか。

## 20230224 村長記者会見要旨（令和4年度第4回記者会見）

村長：原子力発電所だけでなく原子力機構や核物質管理センターでも火災が起きており、安全管理が問われている。現場の管理・監督者が注意するだけでなく、事業所として原因の検証をしっかりと行っていく風土を作って欲しい。

記者：タウンミーティング開催事業は、東海第二発電所の再稼働賛否の意向確認の場になじまないということだが、今後どのように意向把握を行っていくのか。

村長：意向把握のための具体的な方法は決まっていない。しかし、タウンミーティングは住民同士の対話にもなっている。20名ほど参加してくれた地区もあり、原子力について住民の方同士で話し合うことができた。住民同士の話し合いでどのような意見が出るのか注視したい。原子力も含め、まちづくりについてざくばらんに話し合える機会を作っていきたい。

記者：「ざくばらんに話し合える機会」はタウンミーティングとは別に、東海第二発電所の再稼働に関する住民対話の場を改めて作るということか。

村長：タウンミーティングの中で一部そのような場を設け、成り立つようであれば、新たな場として設けていきたいとも思うが、具体的な実施方法は考えていない。

記者：タウンミーティング参加者の無作為抽出は次年度も継続するのか。

村長：継続する。普段は原子力に関心が無く、発言がない方の意見を聞くため、無作為抽出が肝要だと思っている。

記者：出産・子育て応援パッケージ事業でギフト券を支給することは、作成や郵送のコストがかかるのではないか。

村長：そのような面もあるが、現金支給は振込手数料がかかるため、経費は大きく変わらないと思う。それよりも、村内事業者に参加してもらい還元できるかが大事であり、事務的経費は問題視していない。

記者：ギフト券支給に係る企画費や委託費がかかってくるのではないか。

村長：事務的経費は負担とは捉えていない。それよりも、お店側で手数料がかかってしまうことを懸念している。手数料を含め、事業主が新しい顧客獲得として参入してくれるよう、説明会で協力をお願いしていきたい。

記者：タウンミーティングは、「原子力」をテーマにするのか。

村長：「まちづくり」をテーマにしたい。教育分野や福祉分野や環境分野といった細かいテーマに原子力分野も絡めた話し合いをしていきたい。